

第1回 NITS 大賞（平成29年度）エントリーシート

三鷹市立井口小学校

C-36

【活動名】 「学級担任による英語の授業」を創造する校内研修 平成29年4月～平成29年12月（計4回）

解決すべき課題：

英語力の向上は、我が国の重要な課題の一つである。2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催年から始まる小学校における外国語（英語）教育の教科化に期待がかかっている。しかし、我が国の歴史を振り返ってみても、いまだかつて全国の公立小学校において、教科としての英語指導は行われていない。このような現状から、小学校の教育現場では、教科としての英語教育の開始に対して不安を感じている担任が多い。そこで、校内英語研修を開催し、学級担任の必要感に応じた共感的な支援を行うことで、組織的に英語授業力の向上を図った。

目的や背景：

ALTではなく、学級担任が主導で英語の授業を展開するにあたり、まず、学級担任が必要だと感じている内容をアンケートにより明らかにした。5月に行ったアンケートの結果、「英語担当教員による実演」、「授業参観」など、学級担任が主導で行う英語の授業イメージの構築を行う機会を必要としていることが明らかになった。従って、本活動の目的は、校内研修を通して、授業のフレームの提案、教材・活動の提示と実演、校内・教室英語の共通理解を図り、英語の授業イメージを構築できるよう支援し、「学級担任による英語の授業」を創造するための指導力の向上を図ることであった。

活動内容：

学級担任のニーズに基づく校内英語研究

全学年の学級担任による授業実践

1. 授業のフレームの提案

校内研究において、モデルとなる授業フレームを提示（資料1）
 学習の流れの定着
 ALTとの分担、ルーティン活動（始めと終わりの歌、Small Talk）を位置づけ
 PPP（Presentation, Practice, Production）の構成
 「～の英語を学ぶ」から「英語で～する」までを意識した授業展開



2. 教材・活動の提示と実演

読み聞かせ「Before/During/After Readingにおける指導内容と実演」
 新教材「ポインティングゲーム」の英語での進め方と実演
 新教材で取り扱う活動の学年ごとの説明
 英語カルタの仕方と実演
 英語の歌紹介



3. 校内・教室英語

教室英語シート配布・活用方法説明
 今月の英語ポスター配布・教室内掲示



「学級担任による英語の授業イメージの構築」



「授業実践」に関するニーズが向上
 学級担任による授業の創造へ

活動の成果： *アンケートの評価は1～5（役に立つ5～役に立たない1）6観点、32項目

全学級において担任が主導の英語授業が行われ、授業フレームとルーティン活動が定着し、TTの役割分担がスムーズに行われるようになった。事後アンケートの「教材・ICT等の活用」の項目は0.39増加、「児童とのやりとりや進め方」の項目は0.33増加、「英語での語りかけ方」の項目は0.25増加、「題材の選定、教材開発の仕方」の項目は0.23増加するなど、授業実践にかかわる内容に対するニーズの高まりがみられた。事後アンケートの「教材研究・ICT活用」の項目において、有意な増加が見られた（<0.05）。

ニーズに応じた校内研修を実施し、授業の共通理解を図り、組織的に実践をおこなった結果、学級担任の授業を創造していく意識が向上した。

（表1）学級担任が英語で授業を行うために必要だと感じていることの調査結果 上位5項目の変化（n=20）

	5月	Score
1	・英語担当教員による実演	4.89
2	・授業参観や映像視聴の機会	4.56
3	・話すことスキル ・様々な国の生活や習慣に対する知識	4.53
4	・模擬授業の実施	4.50
5	・異文化交流体験	4.47



	12月	Score
1	・英語担当教員による実演	4.85
2	・映像視聴・授業参観 ・TT指導の在り方・役割分担など	4.60
3	・児童とのやり取りの進め方	4.55
4	・教材・ICTの活用の仕方 ・模擬授業の実施	4.50
5	・英語での語りかけの仕方	4.45

アピールポイント（アイデア）：

校内研修で授業フレームを提示し、PPP構成の授業展開、ルーティン活動、TTの役割分担を明確にしたことで、学級担任主導の英語の授業となる。校内研修で共通理解を図り、授業で活用・実践を積み重ねることが、学級担任による英語の授業を創造するのに効果的である。ニーズに応じた校内研修の充実が、授業実践における具体的な指導力向上への意欲を高める。

東京都 にしみたか学園 三鷹市立井口小学校「英語授業フレーム」

	授業の流れ	T1	ALT	Memo
Warm Up (5)	挨拶などの一般的な内容・前時の学習内容の復習・音楽を用いるなどし、Warm Upする。	ALTの質問に答えたり、児童のサポートをしたりする。	挨拶、天気、月日、曜日、前時の振り返りなどをする。	毎時初めに基本の挨拶と質問し定着を図る。低学年は、HELLO SONG等を用い、歌とダンスを取り入れる。
Today's Goal (5)	Presentation: モデルを示す HRTとALTの会話の内容を推測しながら聞きとる。本時の学習内容を考える。 日本語で本時の学習を確認し、めあてを板書する。	ALTとSmall Talkを行う。 本時の学習内容を児童に考えさせる。 発問 概要について 発問 聞こえた言葉について めあてを板書する。	T1とターゲットセンテンスを用いたSmall Talkを行う。 必要なら会話を再現する。	Context setting コンテキストを設定し、場面のイメージを共有する。児童の思考が本時の課題に導かれるようにする。
Activity1 (10)	Practice: 語彙やフレーズを身に着ける 本時のめあての達成やアクティビティに必要な語彙に親しむ。 Controlled Activityで定着を図る。	絵カードをはる。 児童の様子をみてサポートし、ALTに反復の指示を出す。 アクティビティのデモンストレーションを行う。	本時のめあてやアクティビティに必要な表現や語彙をよく発音する。 デモンストレーションを行う。	本時のめあては、語彙を理解することなのか、答えたり伝えたりすることなのか、尋ねることなのかを意識して活動を設定する。
Activity2 (20)	Production: 創造的な自己表現を伴う活動を行う 本時のめあての達成につながる気持ちや考えを表現する活動を行う。			
Summary Reflection (5)	本時のめあての振り返りをする。	本時のめあてに対する振り返り や、本時の感想を聞く。	児童生徒に対する感想を伝える	教室英語を使用して終わりの挨拶を行う。低学年は、SEE YOU SONG等を用いるなどし、お別れの語彙に親しむ。

表1. 学級担任が英語で授業を行うために役に立つと考える内容(ニーズ)の調査(役に立つ5~役に立たない1)

			5月	12月	増減	有意差
1 識・理解 の知 育小	1-(1)	外国語教育導入の経緯・現状、学習指導要領	3.78	3.75	-0.03	
	1-(2)	主教材(教科書・デジタル教材)	4.29	4.10	-0.19	
	1-(3)	小・中・高等学校の英語教育における連携と校種ごとに期待される役割	3.65	3.75	0.10	
	1-(4)	多様な学校・児童のニーズへの対応の在り方	3.56	3.75	0.19	
2 語・知識 得子 にも 理の 二	2-(1)	言語使用を通して言語習得・類推から理解すること	4.11	4.05	-0.06	
	2-(2)	音声に対する感受さ(違いの認識)	4.22	3.95	-0.27	
	2-(3)	国語教育との連携による言葉への気づき	4.00	3.65	-0.35	
	2-(4)	意味内容重視(指導内容の重要性)	3.94	3.75	-0.19	
	2-(5)	受信から発信、音声から文字へ(インプットの大切さについて)	4.00	3.85	-0.15	
3 授業 実践	3-(1)	英語での語りかけ方	4.39	4.45	0.06	
	3-(2)	児童の発話の引き出し方・児童とのやりとりの進め方	4.22	4.55	0.33	
	3-(3)	文字言語の与え方・読む活動・書く活動への導き方	4.00	4.25	0.25	
	3-(4)	題材の選定・教材開発の仕方	4.17	4.40	0.23	
	3-(5)	年間指導計画・単元構成・1時間の授業構成・様々な活動・学習指導案作成の仕方・短時間学習の設定	4.11	4.25	0.14	
	3-(6)	チームティーチングによる指導の在り方	4.39	4.60	0.21	
	3-(7)	教材・ICT等の活用の仕方	4.11	4.50	0.39	* <0.05
	3-(8)	学習到達目標(CAN-DOリスト)作成と評価における活用(評価の仕方)	4.06	4.05	0.00	
4 模 擬 授 業 模 体 観	4-(1)	英語担当教員による実演	4.89	4.85	-0.04	
	4-(2)	映像視聴・授業参観	4.56	4.60	0.04	
	4-(3)	模擬授業	4.50	4.50	0.00	
5 実 践 に 必 要 な 英 語 力	5-(1)	聞くこと	4.35	4.40	0.05	
	5-(2)	話すこと	4.53	4.40	-0.13	
	5-(3)	読むこと	4.12	4.05	-0.07	
	5-(4)	書くこと	4.06	3.90	-0.16	
	5-(5)	技能統合型の活動	4.18	3.89	-0.29	
6 な 基 本 的 語 彙 運 用 に 必 要	6-(1)	英語の基本的な音声の仕組み	4.00	4.20	0.20	
	6-(2)	音声・語彙・文法の基本的な知識	4.06	4.15	0.09	
	6-(3)	発音とつづりの関係	3.76	4.05	0.29	
	6-(4)	第二言語習得理論の基礎	3.94	3.70	-0.24	
	6-(5)	マザーグース等・絵本・児童文学	4.25	4.20	-0.05	
	6-(6)	様々な国・地域の生活・習慣	4.53	4.35	-0.18	
	6-(7)	異文化交流(体験的な異文化理解)	4.47	4.20	-0.27	

『英語の授業フレーム設定の良い点』

- ・授業の流れが定着し、展開がスムーズに行える。
- ・学習の展開の見通しが持てることで、教室英語で進められるようになる。
- ・授業フレームをそろえると、学年が変わっても、展開は同じなので教室英語が浸透し、英語で指示をして進められる。

『注意点』

- ・いつも同じ展開だと、単調でつまらなくなる可能性がある。
- ・活動内容や、活動の体系(ペア、グループ、全体など)を工夫する。

東京都英語教育推進リーダーによる実演を含む校内研修